
Maybe Love

藍沢茉結

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Maybe Love

【Nコード】

N0317Q

【作者名】

藍沢茉結

【あらすじ】

昔からずっと一緒だった。

大切なただの幼馴染が異性になっちゃっていったのはいつ？

気付きたくなかったから、気付かないフリしてた――

幼馴染ストーリー。

「芽依^{メイ}、勝負っ」

昂也^{コウヤ}が挑戦的な目つきで、私に線香花火を突き付けてきた。

私はそれを受け取って、にっと笑う。

「負けないよっ」

幼馴染。

ずっと昔から一緒。

隣同士が1番自然で。

近すぎて近づけない距離にいる。

大切な、ただの幼馴染…そのはずだった。

いつだろう、昂也が異性にならなっていったのは…。

一歩を踏み出す勇気がなかったの。

だから、いつだって平行線を辿っていて。

そう、その秘めた恋心は、君に対しての初めての秘密。

「あはっ俺の勝ちっ」

満面の笑顔で君が言う。

私も満面の笑顔と、ちょっとした悔しさを含んだ表情で“もう1回っ

”と要求した。

「だーめ、俺が気分よく終わるんだから」

「けちー」

ふっと微笑んだ昂也の顔は、昔とは違った。

無邪気なだけじゃない、その笑顔。

その笑顔は、私の鼓動を速くするには十分過ぎるほどの効果があった。

「また来年、ね」

昂也は立ち上がり、後ろにあったガードレールに背中を預ける。

いつの間にか伸びた身長。

…ううん。

“ いつの間にか ”

そんな訳はなかった。

昂也の成長は、私が1番知っている。

気付いていた。

だんだんと、少しずつ、でも急速に伸びた身長も。

顔つきが、少年から大人に近づいていつている事も。

昔よりも、全然大人びた微笑を時々見せる事も。

だって毎日一緒にいたんだから。
気付かない訳がなかったの。

だから、気付かないフリをした。
だんだん、手の届かない所に行ってしまうに思えて。

気付きたくなかった。

真上にあった街灯は、ちかちかと点滅を繰り返す。

そんな街灯を見上げ、私も昂也に倣って立ち上がった。
そして、目の前にいる幼馴染に声をかける。

「…ね、昂也」

私は隣でガードレールに寄りかかる昂也を見上げた。

「ん？」

私に向けてくれた瞳は、いつも通り変わらない。

交わらせた視線、それが妙に恥ずかしくなって、少し逸らす。
昂也の瞳から、首元まで視線を下げた。

「…好き、かもしれない」

夏の夜風が頬を撫でていく。
それは一瞬だったはずだけど、昂也の言葉が降ってくるまでは永遠の時間。

長すぎる…。

「何、かもしれないって」

やっと返ってきた言葉は、くすつという笑いを含んだ声だった。
熱くなった顔を、夏の生温い空気が助長して、更に熱くさせる。

「俺、好きだよ、芽依の事」

指先に、触れた。

温かい、昂也の指先。

「ずっと昔から」

触れた指先に熱がこもる。
顔は未だに上げられない。

「…知ってる」

なんて強がってみせたけれど、そんな余裕が一体何処にあったのか。
余裕なんてない事を、上げられない顔が物語っていた。

「嘘吐け。初めて言ったぞ」

「昔、毎日のように言ってたよ？」

「え、嘘だろ!？」

「ほんとだって！」

思わず顔を上げた。

いつも通りの会話に、熱は少し落ち着いていた。

だけどその瞬間。

見計らったかのように、街灯は電気が切れて点灯しなくなった。
それと同時に、ふわっとした感触が唇に走る。

やっと、すぐ目の前に昂也の顔がある事に気が付いた。

体が再び、熱を持つ。

「――あの日の“好き”と今の“好き”が違う事くらい、気付いてんだろ？」

昂也、ねえ。

「…好きだよ」

私の“好き”だって、あの頃とは違うんだからね？

End…

（後書き）

幼馴染ならではの感情、表せていましたでしょーか？笑
久々の幼馴染ストーリーでしたw

：何の障害もなくくつついたな、この2人：^^；

それでは。

ここまで読んで下さった皆様に、最大の愛と感謝を込めて。

With love. . .

ありがとうございました！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0317q/>

Maybe Love

2011年1月13日00時05分発行